

学校経営ビジョン	望ましい人間関係の中で、将来に夢をもち、豊かな人間性と確かな学力を身に付け、自己表現ができる児童を育成する。
----------	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	重点目標： 学力の向上 手段： 1 主体的・対話的で深く学ぶ学習態度の育成 2 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の実践 3 自分の考えを表現する力の育成 4 家庭学習の充実	1について ○ 年2回の相互参観授業を実施した。4つのチェックポイントをもとに自己の授業を振り返ることで授業力向上につながった。 ○ デジタル教科書、実物投影機等のICT機器については十分活用が図られている。本年度からタブレットが導入され、活用が進んでいるが、より効果的な活用方法について更に研修を深めていく必要がある。 2について ○ 漢字コンテスト、計算コンテストに向けて各クラスで積極的な取組がみられた。実施する時間や表彰等については今後改善の余地がある。 ○ 来年度以降、学力向上タイムの計画的な活用と、県の課題でもある読解力を高めるための指導を積極的に取り組んでいく必要がある。 ○ 鉛筆の握り方については評価が低く、学校での指導はもちろん、保護者にも啓発を行う必要がある。(箸の握り方についても) 3について ○ 話し合いについては児童の評価が8割と高いにも関わらず、教師は5割となっている。自分の思いや考えを表現する場や時間を多く設定していく必要がある。 ○ 「家族の作文」では学校賞をいただくことができた。宮日ジュニア作品展では2名の児童が西諸県地区代表として中央審査会へ出品した。 4について ○ プリントや自学ノート、漢字練習等、計画的に課題として出している。「課題は必ず終わらせる」を意識させた指導を行っている。	3.3	3.3	○ 参観日などで、子どもたちの絵、工作、宅習ノートなどを見ることができ、他の子どもたちのがんばりが分かってとてもよいと思う。 ○ 漢字・計算コンテストの賞状も子どもたちはとても喜んで聞いています。学力向上へつながっていると思う。 ○ 鉛筆の握り方については家庭の協力が必要だが、学校でも指導を継続していただきたい。 ○ ICTの活用については、小さいころより慣れ親しむ必要性を実感した。 ○ 保育園でも文字への出会いの時に三角鉛筆を利用し、正しい持ち方へつながるようにしている。 ○ 新聞に紙屋小児童の作品が載るととてもうれしくなる。どんどん出品して欲しい。 ○ 相互参観授業を行っているとのこと、先生方の授業力向上につながっているようなので、継続されるといいと思う。
徳育	重点目標： 豊かな心の育成 手段： 1 基本的な生活習慣の形成 2 読書活動の推進 3 人権教育の充実 4 命を守る防災・安全教育の充実	1について ○ あいさつについて児童は8割以上できていると回答しているものの、保護者と職員の評価は低く、あいさつの仕方や意味についても具体的な指導が必要である。 ○ 規範意識については十分でないと感じている職員が多く、家庭や地域とも連携した指導が必要である。 2について ○ 12月末現在、全校児童による図書貸し出し冊数は6600冊であり、1人平均100冊を超えた。しかし、個人差が見られ、目標を達成できていない児童もいる。 ○ 読み聞かせグループ「たんぼぼ」による読み聞かせは充実が図られており、評価が高い。 3について ○ 教育相談、悩みアンケートをもとにスマイル委員会を実施し、いじめや児童の悩み等の早期発見と対応に努めている。児童の言葉遣いが気になるところである。 ○ 人権に関する授業を年間2回行い、人権について考える機会を設けた。保護者にも感想をいただき、共に考えていくことができた。 4について ○ 6月に風水害対応避難訓練、9月に火災対応避難訓練を行った。連絡メールの保護者加入率が100%となり、風水害避難訓練ではスムーズな引き渡しが可能となった。 ○ これまで交通事故は発生していない。「子ども110番、お助けハウス」については、今後の協力について、職員で手分けして確認作業を行うことができた。	3.2	3.0	○ 紙屋小の子どもたちは年齢に関係なく、仲良く過ごしている。先生方も、その学年の子どもたちに合わせて指導されているようだ。下学年は上学年を見て学んでいるところもあると思う。 ○ 学校だけでなく、地域でも進んであいさつができるとうい。 ○ 地震や風水害の避難訓練は、いつ起きてもおかしくないので真剣に考えていきたい。家庭でも話し合う必要性が高まってきている。 ○ あいさつの仕方や意味について指導されれば、さらによくなると思う。 ○ いじめは先生方の分からないところで起きるものなので、毎日の生活で十分注意されながら、子どもたちの行動に気を付けて欲しい。 ○ 一人で帰る子どもたちも見かける。できたら、二人以上かグループで下校するよう指導していただければと思う。
体育	重点目標： 体力の向上 手段： 1 規則正しい生活習慣の育成 2 体力向上に向けた計画的な取組 3 体育科学習指導の充実	1について ○ 「生活リズム週間」や家庭での取組によって「早寝・早起き・朝ご飯」については保護者からも9割以上の高い評価をいただいている。職員は「歩いて登校」の部分で評価が低い。 2について ○ 体力向上のための取組として、体力テスト前に職員で実施方法と体力を高めるための指導について研修を行った。 ○ 2学年合同の体育については、よさと同時に課題も見えてきたため実施について検討が必要である。 3について ○ 持久走練習期間には業間の時間に一生懸命に持久走練習に取り組む姿が見られた。大会本番も一人一人の児童が最後まで力を出し切ることができた。 ○ 昼休みには外遊びが定着しており、体力の向上につながっているものと思われる。	3.0	3.3	○ 体力のある子どもが多いと感じる。遠くても歩いての登校をがんばっていると思う。 ○ 朝、信号のところで立ち番指導をしてくださっている校長先生ありがたい。 ○ 持久走の、子どもたちがみんな必死に走る姿に感動した。 ○ 児童数の少ない学校なので、実施が難しい体育の内容もあると思う。持久走大会で走るのが苦手な子どももいただろうが、先生と一生懸命練習したのだからと感動した。 ○ 昼休みの時間帯に学校へ行く機会があり、運動場でみんな元気よく遊んでいる光景を見ていいなと思った。
食育	重点目標： 望ましい食習慣の育成 手段： 1 食に関する指導の計画的な実践 2 給食指導の充実 3 弁当の日の計画的な実践と家庭との連携	1について ○ 学活や給食時間の指導により、9割を超える児童が食べる大切さや食事のきまりが分かったと回答している。 ○ 肥満傾向児童については保健室が中心となり、家庭と連携した指導を行っているところである。 ○ 虫歯治療率については現在82%である。今後も家庭への治療呼び掛けを行っている。 2について ○ 食べ残しについては非常に少ない状態が続いている。今後も食の大切さとマナーについて指導を継続していきたい。 3について ○ 遠足の日に合わせて「弁当の日」を実施している。家庭の意識も高く、積極的な取組がみられる。	3.2	3.3	○ 毎日、おいしい給食をとても楽しみにしている。残さず食べる指導により、家庭でも残さず食べることができている。 ○ むし歯治療については、つい忘れがちになるので、長期休業前に個人に治療のすすめのプリントがあるとありがたい。 ○ 学校でも家庭でもしっかりごはんを食べている子ばかりだと思う。お弁当の日も、早起き、親子のスキンシップにつながっていると思う。 ○ 食べ残しが少ないことは、食べ物を大切にすることにつながるので続けて欲しい。 ○ むし歯が一本もない子も多いので、引き続き歯みがきの指導と治療を進めていただきたい。
その他	教職員の働き方改革 手段： 1 業務のスクラップと見直しの実施 2 リフレッシュデーの実施	1について ○ 本年度、全職員による業務の見直しを行い、必要なものとそうでないものについて振り分けを行った。全体的な仕事量の削減を行い、子どもと向き合う時間の確保に努めた。 2について ○ リフレッシュデーについては、まだ十分に徹底できていない。職員の意識についても改革が必要であり、教師自身が生き生きとした姿で児童の教育を行っていく必要がある。	2.9	2.8	○ 先生方の元気が、子どもたちにも伝わると思う。 ○ 先生方の働き方改革で仕方ないのところが、親との交流の機会が減っていると思う。先生方と気兼ねなく話ができる機会がもつとあるとよい。 ○ 職員の働き方改革賛成である。少しでも事務の軽減を図って体と心を休めていただきたい。

次年度の方向性についての校長所見	本年度の取組と次年度に向けた改善について 「知」、「徳」、「体」、「食」の重点目標達成のため、全職員がそれぞれのよさを生かし、互いに協力しながら児童の教育を行ってきた。学校評価アンケートでは、ほとんどの項目で高い評価結果が得られたが、本年度、課題が見えてきた箇所については次年度に向けて工夫、改善を行ってきたい。また、課題の中には家庭の協力なしには改善できないものもあるため、本校の教育について更に情報発信を行うとともに、いっそうの連携を図っていきたく考える。
------------------	---

